

鎚木城(かぶらぎじょう)

場所 千葉県香取郡干潟町鎚木字古城1827

城主 鎚木胤定

立地 丘城

築創年代 寛喜年間(1229~1232)

干潟町指定史跡

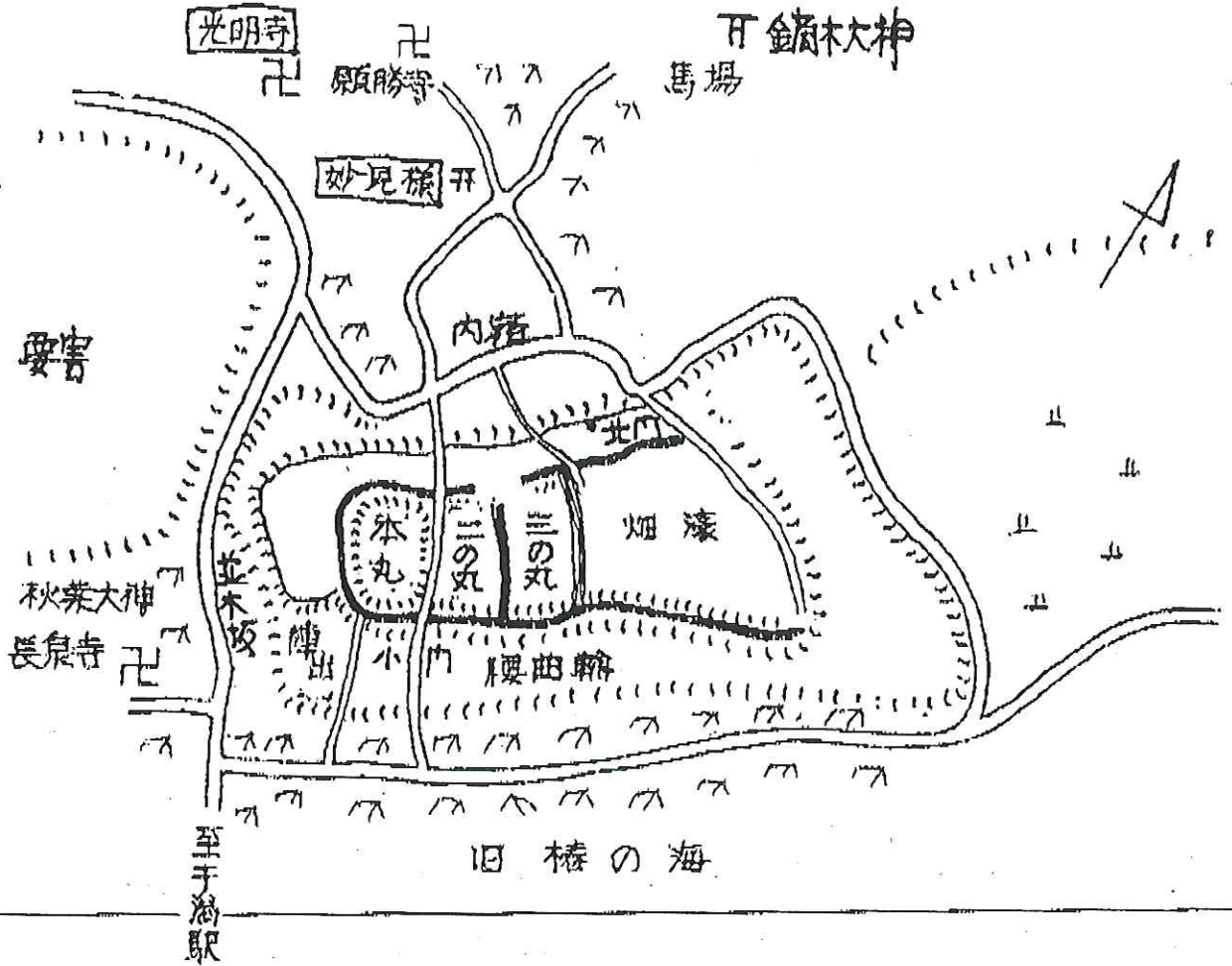


鎚木城は県道佐原椿海線と多古笹本線との交差点の北側の台地上に築かれた直線連郭式の山城である。「干潟町西保育所」の背後の急峻な台地上といえれば判りやすいかもしれない。

3つの曲輪を持つ縄張りであるが、北総地区にありがちな細長い半島状台地の先端に主郭、台地基部に向かって2曲輪・3曲輪と配置する形式ではなく、太く短く突き出した台地に台地基部と平行に西から主郭・2曲輪・3曲輪と直線的に並んでいる。

この鎚木城は申すまでもなく、千葉氏家臣四天王の一人、鎚木氏代々の居城である。初代城主は鎚木胤定で父の胤時は千葉常胤の子、胤政の第八子であった。父胤時ははじめ千葉八郎を称したが、下総国印旛郡白井郷を封ぜられ白井八郎を名乗った。その長子、胤定ははじめ白井九郎といったが、寛喜年間(1229~1232)に鎚木郷を封ぜられ、鎚木城を築き居城とした。以後、子孫は鎚木氏を名乗り、千葉宗家の重臣となった。それより鎚木氏は胤定から数えて11代まで続き、最後の城主胤家は天正18年、千葉重胤に従って小田原の陣に従軍したが、強大な豊臣軍の前には屈するしかなく、鎚木氏は野に下り鎚木城も明け渡された。

鏑木城址略図



鏑木城址鳥瞰図

